

平成 29 年 7 月

「海の日」にあたって

一般社団法人 日本造船工業会

会 長 か 加 とう 藤 やす 泰 ひこ 彦

平成 7 年に国民の祝日として「海の日」が制定されて以来、着実にその意義が、広く国民の間に浸透し、親しまれるようになってきたことは誠に喜ばしいことでもあります。平成 29 年の「海の日」を迎えるにあたり、海の恩恵に深く感謝し、海洋国家日本の繁栄を皆様とともに祈念いたしたいと思えます。

海は、太古の昔より人類に大きな恵みをもたらしてきました。とりわけ、海洋国家であるわが国において、海は豊かな幸を得る場として、また人や物資、文化の交流の道として、わが国の発展と独自の文化の形成に重要な役割を果たしてきました。現在でも、食料や資源をはじめ、私たちの暮らしに必要な物資のほとんどを海外からの海上輸送に依存しており、こうした海外との貿易によってわが国の経済は成り立っております。これからも海の有効活用なくしては、わが国の発展は考えられません。

さて、日本造船業は、長年にわたり信頼性の高い良質な船舶を建造することで、世界の海上輸送を支えるとともに、わが国経済の発展に貢献してきたと自負しております。世界中で地球環境保全の強化

が叫ばれる中、国際海事機関（IMO）においても二酸化炭素（CO₂）や硫黄酸化物（SO_x）などの排出規制が段階的に強化され、地球環境保護への取り組みが活発化しております。日本造船業は、世界に誇る高度の建造技術と最先端の環境技術を活かし、次世代省エネ船や高環境性能船、LNG燃料船など環境に優しい高性能な船舶の開発・建造を進めることで、地球環境保護に貢献していく所存であります。

また、わが国は世界第6位の広大な排他的経済水域を持つ海洋国家であり、海洋開発は無限の可能性を秘めております。わが国の周辺海域には、大量のエネルギー・鉱物資源が眠っているものとみられており、その開発と活用は、わが国の未来に大変重要なフロンティアであると思います。加えてエネルギーの分野では、現在、実証研究が進められている浮体式洋上風力発電をはじめ、潮流・波力発電など、海を活用した再生可能エネルギーの実用化に大きな期待が寄せられています。日本造船業としては、これまで培ってきた優れた造船技術を活かし、更なる技術革新に邁進し、海洋資源・海洋再生可能エネルギーなどの新分野への進出に取り組んでいく必要があると考えております。

さらに、日本造船業は、良質な船舶の安定供給や高度な艦艇の建造などを通じ、日本の経済、安全保障はもとより、地域密着型の産業として、地域の経済・雇用に貢献するなど、海事産業の一翼を担っております。今後も地方創生に大いに貢献して参りたいと思います。

さて、「海の日」は、明治9年に明治天皇が東北ご巡幸からお帰りの際、灯台巡視船「明治丸」に乗船され無事横浜にお帰りになられた日（7月20日・「海の記念日」）に由来し、平成7年に「海の記念日」が「海の日」として国民の祝日に制定されました。しかし、現在「海の日」は7月第3月曜日とされ、7月20日が「海の日」とされた本来の意義から次第にかけ離れ、この日に対する国民の皆様意識が薄らいでいることは、誠に残念であります。

わが国が真の海洋国家として発展し、また造船業をはじめ海事産業に携わる人々が誇りをもって働き、海の平和と安全、環境保全や海上交易の重要性を世界に発信していくためにも、是非、「海の日」を7月20日に固定して頂きたいと思えます。

「海の日」を契機として、海洋国家日本に生まれた多くの方々、特にわが国の将来を担う若い世代の皆様は、海についてもっと知って頂き、造船業をはじめ、海に携わる海事産業に魅力を感じて頂けることを期待しております。そのためにも、日本造船業といたしましては、未来を切り拓く、新しい技術の開発を通じて社会に貢献して参ります。今後とも日本造船業に対するより一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

以 上